

長期滞在のススメ ～フィリップ・バンバデュ氏インタビュー～



「日本に長期滞在して研究することをお薦めします」と語る、フィリップ・バンバデュ氏。ATF2のビームラインにて。

大学共同利用機関法人である高エネルギー加速器研究機構 (KEK) には、多くの共同利用者が訪れる。放射光施設の「ユーザー」と呼ばれる研究者たちは、それぞれの研究に必要な試料に加速器の作る放射光を当てて、その構造やしくみを明らかにする。大学院生たちは、第一線の研究者とともに実験に参加し、修士論文や博士論文をまとめあげる。KEK の施設を使って実験や研究をするために、日本そして世界各地の大学や研究所から、多くの研究者や学生たちがやってくるのだ。海外からの研究者の中には、短期間の訪問では飽き足らず、日本に長期滞在して実験や研究に勤しむ人もいる。フィリップ・バンバデュ氏もその1人だ。バンバデュ氏は、フランス線形加速器研究所に所属する、加速器・測定器インターフェースの専門家である。

「私の妻も物理学者だったので、ATF^{*1}での研究の意義や面白さはよく理解してくれました。ですから日本への長期滞在という私の提案に、すぐに同意してくれました」とバンバデュ氏は話す。バンバデュ氏が日本への長期滞在を決めたのは、2008年春。それまで幾度となく ATF を訪問して実験を重ねて来た。「世界有数のビームを使って実験ができることももちろん ATF の一番の魅力です。国際協力で推進されている ATF にはいろいろな国から研究者が来ますが、いつも暖かく家庭的な雰囲気で迎えてくれます。腰を据えて、もっどじっくりと研究に取り組みたかったのです」。こうして夫婦と息子二人、バンバデュ家の日本での暮らしが始まった。息子二人が学校へ通いやすいようにと、フランス人学校のある浅草にマンションを借り、自身はつばエクスプレスで電車通勤。まさに「日本のお父さん」のようだ。しかし、家族が日本に馴染むのに問題はなかったのだろうか。

「息子たちはあっというまに友達を作りました。フランス人学校と言っても、生

徒の多くは日本で生まれ育ったフランス人やフランス人と日本人のハーフ。子どもにフランス語を学ばせたい日本人もたくさんいます。すぐに日本語を話すようになりました」。特に次男のアントワンくん (16 才) は日本滞在をエンジョイしたという。「学校の友達と、深夜バスでのスキー旅行に行ったのです。フランスでは子どもだけで旅行に出すなんて、危険でとても考えられません」。フランス最高峰のパブリックスクールへ推薦入学が決まったアントワンくんは、昨年6月末一足先にフランスへと戻ったが、日本での生活が名残惜しく、入学願書を提出したことを後悔したほどだったという。

一方、妻のアンナさんは、最初の半年ほど辛い日々を送ったという。買い物や乗り物に乗る、近所の人と話すといった、日々の暮らしの「当たり前」がままならない状況がストレスになったのだ。これは海外に暮らしたことのある人誰もが経験することであろう。ストレスの元は他にもある。なんと「電車が時間通りに来る」ことがストレスになるというのだ。「日本に来て感じるのは、なんでも完璧であろうとする文化です。電車は当たり前のように時間通りに来る。列を作って並ぶ。みんな持ち物や身なりに気を使っているし、女性はきれいに化粧をしている。でもそのような完璧さが、私たちフランス人には機械的に感じられて、まるでロボットのような自由のない世界に思えたのです」。あまり感情を表に出さない、間接的な言い回しをする、といった日本人独特のコミュニケーションの方法にも最初は戸惑いを感じた。「でも、そこに住んでいる人にとってナチュラルな姿であれば、それはマイナス面ではないと思います。単に慣れれば良いだけの話です。今では、家族全員が日本の特色—信頼できる、正直、フレンドシップやパートナーシップを大切にすること—に感謝しています。これは、生活の上でも、仕事の上でも同様です」。



バンバデュ氏の滞在期間は、今年8月で一旦終了する。2年間住んだ日本への注目は? 「実は不満らしき不満は無いのです。強いて言うなら住む場所を見つけることの難しさですね」。賃貸住宅への外国人の受入れ状況は厳しい。契約書は全て日本語、印鑑も必要だ。「KEKの秘書さんや研究者のサポートがあって、大きな問題にはなりません。外国人研究者には、日本に長期滞在すること、特に学生にはATFでの研究に携わることをご勧めします」とバンバデュ氏。ATFでの研究に関わっていたフランス人の学生3名、ポストドク^{※2}2名の全員が帰国後すぐに職を見つけたという。そのうちの2名は欧州合同原子核研究機構(CERN)に就職した。中国からATFに来ていた大学院生たちも、中国高能科学院への就職を決めている。「日本のATFでの経験は、彼らの職務経歴書をととても魅力的なものにするという証拠です」。日本文化の理解や職務経歴書のアピールポイント。世界有数の実験の場の提供以外にも、ATFは活躍しているようだ。

※1) ATF: 先端加速器試験施設。国際リニアコライダー等の次世代加速器で必要となる、非常に高品質なビームの生成・制御技術を研究している。
 ※2) 博士号取得直後に就く、短期の任期付きの職。

最近の話題

ILC 土木・施設設計検討に関する国際レビュー委員会開催される



群馬県神流川の東京電力地下発電所の見学の様子

6月1～2日の2日間、KEKで「日本におけるILC土木・施設設計検討に関する国際レビュー委員会」が実施された。このレビューは、先端加速器科学技術推進協議会(AAA)の技術部会・施設ワークキンググループがまとめた、日本におけるILCトンネルの検討報告書について科学者・専門家・学識経験者で構成される国際委員会がその技術的成立性を評価するもの。日本におけるILCのトンネルおよび付帯施設の設計の評価と、それらの設計とILC国際共同設計チーム(GDE)からの要求との整合性の確認が行われた。さらに、施設・技術検討をKEKが主体となって進めるにあたっての事前の計画評価が行われた。委員会メンバーは、日本における大規模建築の代表例として、茨城県東海村の大強度陽子加速器施設(J-PARC)と群馬県神流川の東京電力地下発電所も見学した。今回のレビューでセクレタリーを務めたGDEプロジェクトマネージャーの山本明氏は「AAAによって検討された山岳を含む地域におけるILC土木・施設設計が、GDEの2009年基本設計改定案に、十分に整合するとの判断を評価委員会が下し、結論として諮問したことは、とても意義深いものです」と述べた。評価委員会の委員会からの公式な評価報告書は7月中旬に発表される予定。

ATF2で、ナノメートルレベルのビーム達成

5月中旬、ATF2プロジェクトチームはナノメートル[※]レベルの垂直ビームサイズを達成した。ATF2はILCのための最終収束テスト・ビームライン。KEKのATFの取り出しラインを延長してつくられたもので、約90メートルにわたって並ぶ電磁石やそれらのサポートシステムを使って、ビームを小さく絞り込む。ATF2の第1目標は37ナノメートルの垂直ビームサイズを達成すること。第2の目標は高いリミニシティを確実にするため、ビーム焦点位置を数ナノメートル・レベルで長期にわたり安定させることだ。

「ATFとATF2の国際共同研究を通じて私たちは、目標の達成に向け

て国際的な共同活動の調整や統合がどれほど重要であるか、学んできました。この経験は、ILCが将来成功するために貴重なものとなるでしょう」とATF2プロジェクトの責任者である田内利明氏(KEK)は語る。5月17～21日に1週間の連続実験で確認されたビームサイズは300ナノメートル。2010年12月末までに達成することを目標としている37ナノメートルのビームサイズの達成に弾みがついたかたちだ。

※1ナノメートル=100万分の1ミリメートル

「読者アンケート」へのご協力ありがとうございました

5月15日～6月20日の期間で、読者アンケートを実施いたしましたところ、75件(メール、郵便、FAXを含む)のご意見、ご要望のお言葉をお寄せいただきました。誠にありがとうございました。

多くの皆さまより、イベント情報の掲載のタイミングが遅いとのご指摘を受けました。よりタイムリーなイベント情報の提供を目指し、ILC通信ではTwitterを開始致しました(http://twitter.com/ilc_tsushin)。月一回の発行頻度ではカバーできない情報は、ホームページおよびTwitterを通じて発信していきます。ぜひフォローして下さい。

地方でのイベント開催についても多くのご要望を頂きました。貴重なご意見を参考に、今後の開催計画を立案していく所存です。また、KEKでは出前授業「KEKキャラバン」の本格運用を開始しております。このプログラムは、加速器科学や素粒子物理学研究に対する理解を深めていただくため、普及活動の一環として、KEKの研究者や職員を学校、各種団体等へ講師として派遣するものです。お申込方法等、詳しい内容は、KEKキャラバンホームページ(<http://caravan.kek.jp>)または、広報室普及グループ KEKキャラバン係(TEL:029-879-6247、E-mail:caravan@ml.post.kek.jp)までお問い合わせ下さい。

今後ともILC通信ならび、ILCへのご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

夏のイベントのお知らせ

| 日程 | イベント名 | 場所 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 8/3-5 | 2010 夏休みサイエンススクエア 簡単物理実験：霧箱で素粒子の実験にチャレンジ何が飛んでいるのかな? 作った霧箱は持って帰ることができます。 <時間>10:00～16:00(開場9:45) 整理券配布:9:10～企画展示室前 <対象>小学4年生以上 <協力> KEK | 国立科学博物館 日本館 2F 講堂 |
| | <お問い合わせ>国立科学博物館 ウェブサイト: http://www.kahaku.go.jp/event/2010/07science/ TEL:03-5777-8600 (ハローダイヤル) | |
| 8/28 | J-PARC 公開 JAEA 東海研究開発センター施設見学会・実験教室 <時間>9:30～16:30(最終入場15:30まで) ※当日はJR常磐線「東海駅」から無料送迎バスを運行いたします。 <お問い合わせ>日本原子力機構(JAEA)東海研究開発センター総務課 TEL:029-282-5002 / 地域交流課 TEL:029-282-3470 | 原子力科学研究所、J-PARCセンター 核燃料サイクル工学研究所/アトムワールド |
| 9/5 | KEK 一般公開 <時間>9:00～16:30 ※当日はつくばエクスプレス「つくば駅」から無料送迎バスを運行いたします。 <お問い合わせ> KEK 広報室 ウェブサイト: http://www.kek.jp/openhouse/ E-mail:proffice@kek.jp TEL:029-879-6047 FAX:029-879-6046 | KEK つくばキャンパス |

今月の滞在者

KEKには、毎月世界各地から学生や研究者が訪れ、共同研究を行っています。ILCの技術開発のために訪れた滞在者はこちら

ビジター・カウンター

9

国/地域から

42

名